【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和1年11月7日(2019.11.7)

【公表番号】特表2018-534021(P2018-534021A)
【公表日】平成30年11月22日(2018.11.22)
【年通号数】公開・登録公報2018-045
【出願番号】特願2018-515986(P2018-515986)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　5/0215　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　5/0215　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】令和1年9月26日(2019.9.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
患者の血管を評価するための血管内処理システムであって、前記血管内処理システムは、
１つ又は複数の血管内圧力検知デバイス及び表示デバイスに通信可能に結合された処理システムを備え、前記処理システムは、
患者の血管内に位置決めされた１つ又は複数の血管内圧力検知器具によって得られる圧力測定値を受信し、
患者の血管の所望の圧力値に関する入力をユーザから受信し、
類似の症状を伴う以前の患者の処置の経験データ、及び／又は、処置の期待される効果を利用することによって、受信した前記圧力測定値及び前記所望の圧力値に基づいて、利用可能な処置オプションを特定し、
前記表示デバイスに、前記利用可能な処置オプションの視覚表現を含む画面表示を出力する、血管内処理システム。
【請求項２】
前記処理システムは、更に、前記圧力測定値と同時に得られる血管造影データを受信する、請求項１に記載の血管内処理システム。
【請求項３】
前記利用可能な処置オプションの前記視覚表現は、前記血管造影データに基づく血管造影画像上へのグラフィックオーバーレイを含む、請求項２に記載の血管内処理システム。
【請求項４】
前記受信した圧力測定値は、近位圧力測定値及び遠位圧力測定値を含み、前記所望の圧力値は、圧力比である、請求項１に記載の血管内処理システム。
【請求項５】
前記処理システムは、更に、当該処理システムによって複数の利用可能な処置オプションが特定されたときに、１つの処置タイプを選択するための入力をユーザから受信する、請求項１に記載の血管内処理システム。
【請求項６】
１つ又は複数の処置タイプは、血管形成術、ステント、冠動脈バイパス移植術、アブレーション、又は調剤のうちの少なくとも１つを含む、請求項１に記載の血管内処理システ

ム。
【請求項７】
前記処理システムは、血管内のステント配備場所を特定することによって、前記利用可能な処置オプションを特定する、請求項１に記載の血管内処理システム。
【請求項８】
前記処理システムは、ステント長、ステント直径及びステント材料からなる群から選択された少なくとも１つのステントパラメータを特定することによって、前記利用可能な処置オプションを特定する、請求項７に記載の血管内処理システム。
【請求項９】
前記処理システムは、前記利用可能な処置オプションを行った後に、前記患者の血管内に位置決めされた１つ又は複数の血管内圧力検知器具によって得られる更なる圧力測定値を受信する、請求項１に記載の血管内処理システム。
【請求項１０】
前記処理システムは、前記更なる圧力測定値に基づく圧力値が、前記患者の血管のための前記所望の圧力値を満たすか否かを判断し、前記所望の圧力値は、近位圧力測定値に対する遠位圧力測定値の圧力比の閾値である、請求項９に記載の血管内処理システム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】
[0070] ここで再び図５を参照すると、ブロック５４０において、方法５００は、ブロック５３０の所望の結果を達成するのに適した１つ又は複数の処置オプションを特定するための治療計画を行うことを含む。例えば、処置計画は、利用可能な処置オプションのうちのいずれが所望の結果を達成するのに最も適しているかを判断することを含むことができる。処理システムは、この判断を、類似の症状及び処置を伴う以前の患者の処置の経験データ、（例えば、処置の製造者／供給者によって宣言されるような、ユーザによって定義されるような、経験的処置データによって確立されるような、及び／若しくはそれらの組み合わせによる）処置の期待される効果、並びに／又はそれらの組み合わせを利用することによって行うことができる。いくつかの実施形態では、処置計画は、システムのコンピューティングデバイス（例えば、コンピューティングデバイス１７２）に、ステント、血管形成術バルーン、アブレーションエリア、及び／又は血管７０２内で配備される他の処置オプションの１つ又は複数の推奨される特性を決定させることを含む。例えば、ステント配備の場合、コンピューティングデバイスは、１つ又は複数のステント場所について、適切な／所望の位置、直径、長さ、材料等を決定することができる。血管形成術の場合、コンピューティングデバイスは、１つ又は複数の血管形成術場所について、適切な／所望の位置、バルーンサイズ（長さ、膨張した直径）、バルーン材料等を決定する。アブレーションの場合、コンピューティングデバイスは、１つ又は複数のアブレーション場所について、適切な／所望のアブレーションタイプ（例えば、レーザ、超音波、低温（ｃｒｙｏ）等）、位置、除去される材料の量等を決定することができる。異なる処置タイプの１つ又は複数の特性の決定は、収集される圧力データ、計算される圧力比、血管造影データ、閾値圧力比、目標圧力比、理想圧力比等に基づくことができる。例えば、処置の特性は、障害物にわたる圧力比の降下を矯正するように選択することができる。コンピューティングデバイスは、処置オプションの適切な／所望の特性を決定し、利用可能な及び／又は推奨される治療オプションを特定することができる。